

1. 事業報告書

(1) 概況

当年度は延岡総合文化センター開館 30 周年、野口記念館開館 60 周年の節目を迎えた記念の年でありました。平成 27 年度の延岡総合文化センターの年間入場者数は、187,326 人(前年度比 20,218 人増、開館以来の総入場者数は、平成 28 年 3 月末現在で 6,556,559 人に達しています。

また、野口記念館の年間入場者数は、34,153 人(前年度比 2,277 人増)でした。合計で 221,479 人の入場者となりました。

各施設の稼働率は、延岡総合文化センターがホール 76%(大ホール 61%、小ホール 67%)、練習室 92%、展示室 72%、会議室関係 95%で、引き続き高い利用率を保持しています。一方、野口記念館の稼働率は 33%となり利用率の改善がみられます。

施設の利用料金収入は、延岡総合文化センターが 34,808,594 円(前年度比 534,575 円増)、野口記念館が 4,720,496 円(前年度比 262,967 円増)でした。全体では 39,529,090 円(前年度比 797,542 円増)となりました。これは地区大会等での全館使用の催しが多く開催されたこと、各市民団体の周年事業での利用、さらに営業展示での利用増加が要因と思われます。指定管理第 3 期目のスタートとなる今年度も更なる利用率増を目指し、より広域的な営業努力をしていきたいと思ひます。

(2) 施設の管理について

施設の管理については、施設全般にわたって専門業者による保守点検を定期的実施するなど万全を期しております。耐用年数に達した機器の取替工事、安全や快適さをもたらす補修・改修工事等も、計画的に進めているところです。

今年度は大ホールの吊物機構の更新工事を延岡市の予算で実施、さらに大ホールと野口記念館のスピーカーも今までのものより性能が数段上のものに取り換えることができました。また楽屋廊下のカーペット新調やトイレの洋式化など様々な建物、機器の環境整備を実施しました。

(3) 自主文化事業について

開館 30 周年記念事業として、延岡市と団体から補助金を受け、通年よりも数も内容も充実した招聘型公演 11 本、住民参加型公演 10 本の 21 事業を展開することができました。

招聘型の事業では、待望の「宝塚歌劇雪組公演」をはじめ「NHK公開番組 新・BS日本のうた」、「南こうせつ」、「劇団四季」、「葉加瀬太郎」などを招聘しての演奏会を実施しました。

また宮崎国際音楽祭の教育プログラムとしての「子どものための音楽会」や旭化成ひむか文化財団との共催事業「西本智実&イルミナートフィルハーモニーオーケストラ演奏会」では、多くの児童・学生を招待し、本物の音楽に触れる機会を提供することができました。

住民参加型のアウトリーチ活動としては、演劇の手法を通しての表現方法を学ぶ「リージョナルシアター事業」を上南方小中学校で行いました。今後も多くの住民が参加できる事業の企画を続けていく計画です。さらに、ポスターや色紙を利用しての会館の軌跡を振り返る展示会、関係者を招いて文化について語っていただいた座談会も記念年度ならではの事業でありました。

各事業とも好評で県内外からの動員を得ることができ、自主事業決算としては 9,068,447 円のプラスとなりましたが、このうちの一部を自主文化事業積立金として対処いたしました。

そのほか、育成事業として、「のべおか「第九」を歌う会」、「延岡フィルハーモニー管弦楽団」、「シニア劇団のべおか笑銀座」、「ひむかオペラの会」の 4 団体に助成を行ないました。

今後とも、自主文化事業の企画・実施に当たっては、地域の文化団体などとの連携をとり、より質の高いものを提供できるよう鋭意努力してまいりたいと思ひます。